

様式1

研修(研究)報告書

令和3年11月30日

玉名市議会
議長様

氏名 近松 恵美子 印

下記のとおり、参加(開催)しましたので報告します。

参加議員	近松 恵美子		
日時	平成3年10月29日(金)~平成3年11月2日(火) 午前・午後 時 分 ~ 午前・午後 12 時 分		
場所		参加者数	1
研修(研究)事項	発達障害児者への対応支援		
概要及び所見	リディー保育の現状について		

研修報告

研修先	10月29日	森の保育園（東京都大田区仲池上） カバンドレザン（子育て支援クラブ）
	11月1日	ワークピア（山梨県富士河口湖町） 就労移行支援、就労継続支援B型） 富士河口湖町（ホリデー保育の実際）

研修目的

近年玉名市でも自閉症、情緒障害など発達障害と言われる子どもたちが急増している。それに対して、予防や障害が軽くなるような対策がなされていないのが現状である。そこで、食や心理学を取り入れることで、子どもたちが穏やかになり、障害が軽くなる子どもがいる保育園がある、と言うことで、保育の実際を見学するとともに、その成果を伺いたく訪問することとしました。

10月29日

園長のお子さんが、発達障害と診断されたことから、各国における発達障害の子どもたちの食の取り組みについて、研究し、家庭で実践したところ、3か月でお子さんが落ち着いてきた、との経験から、この保育園では、動物性の食品は使わない、ビーガン食とされていました。

お昼過ぎに保育園に到着したため、お昼ご飯を頂いたところ、玄米おにぎりご飯と、味噌汁、漬物、生野菜、菊芋の炒め煮、という食事でしたが、プリンスホテルで働いていたシェフが調理人と言うことで、盛り付けもきれいで、美味しく満足感がありました。そして、砂糖を止めただけで、奇声がなくなり、暴力もなくなったとお話がありました。そのうえ、新型インフルエンザが大流行したときにも、感染する子がいなかったそうです。

確かに、大都会の保育園であるため、園庭もなく保育室の広さも十分とは思えませんでしたが、子どもたちが穏やかで、落ち着いていました。大声を出す子や走り回る子もいなかったという印象でした。また、前頭葉の働きが良くなるようにと、卒園までに、童謡を200曲、絵本を1万冊読んであげることになっているそうです。語彙が増えるとコミュニケーション能力が高まり、会話が豊かになることで、意思疎通がうまくいくので、喧嘩も減るのでしょう。。

その後、子育て支援施設のカバンドレザン、というところへ移動。子どもの一時預かりや学童保育もされているところでしたが、さすがに東京の一等地。狭くて、落ち着かない環境ではないかと思ったが調理台は豪華で、食を大切にしていることを感じました。玉名の学童保育では、粗末な湯沸かし室しかないが、調理台は学童保育には必須であると思います。しかし、利用料がとても高く、低学年では月額56000円。それだけ高所得の保護者がいるということなのだろうと思いました。

10月31日

30日は、長野先生の都合で、伺うことができず、31日に新宿から富士河口湖町に向かった。夜は長野先生からお子さんが発達障害と診断されてから、食事療法を研究したというお話を伺った。大体、砂糖、グルテン、乳製品、テレビ、ゲームを止めると子どもが激変する、とのこと。そこで、保育園でも就労支援施設でもこれらは一切使わないそうです。

11月1日

富士河口湖町役場に行き、ホリデー保育のお話を伺った。玉名市でも、休日も働く親のために、休日保育を公立保育園が担うべきではないか、という声があるからです。特に、観光産業が盛んな河口湖町ではニーズが多いのではないかと、この思いで訪問したのであるが、利用者は、10名程度でありその半数は、就労のためではなく、子どもと一日中過ごすことが苦痛な親であるという話でした。また、財政的には豊かな町であるにも関わらず、利用料が半日で2000円と高いのも、利用が少ない原因かと思いました。

その後、障がい者の就労支援施設B型を見学。ここでも、食事はビーガン。そしてプロのシェフが調理を担当されていた。1年くらいここの食事をする、穏やかになってくると話されたが、確かに、不穏な行動をする人はおらず、静かな雰囲気であった。発達障害の青年が大半であったため外見は全く普通であったが、コミュニケーション能力が低かったり、こだわりが強いなどの個性があり、普通の職場では適応しないことから、この施設を利用しているということであった。経営者が、食事だけでなく、選択理論心理学を取り入れていることから、職員の皆さんの言動が柔らかく、そのためもあってか、利用者間のトラブルもなく、とてもよい表情をされていた。

作業はキャンプ場の掃除が主なものであり、そのため利用者の収入は少なく、デイサービスの障がい者の居場所的な役割を果たしている施設であると感じた。それにしても、この若い子らが普通に働く能力を持っていないことに、今後の日本はどうなるのかと危機感を大にしたことだった。

また、玉名市には、有機野菜、無添加食材にこだわった保育施設や、泥遊びなど自然とのふれあいを大切にしている保育施設などそれぞれ努力されているが、食と心理学を導入している保育施設はありません。

食と遊びと心を育む手法となる心理学を導入した保育施設が増えるように、それぞれの保育施設に働きかけていきたいし、まずは公立保育園が全園のお手本となるような施設になっていただきたいものだと思います。